

第1回 気候市民会議まつもと 開催報告

1. 概要

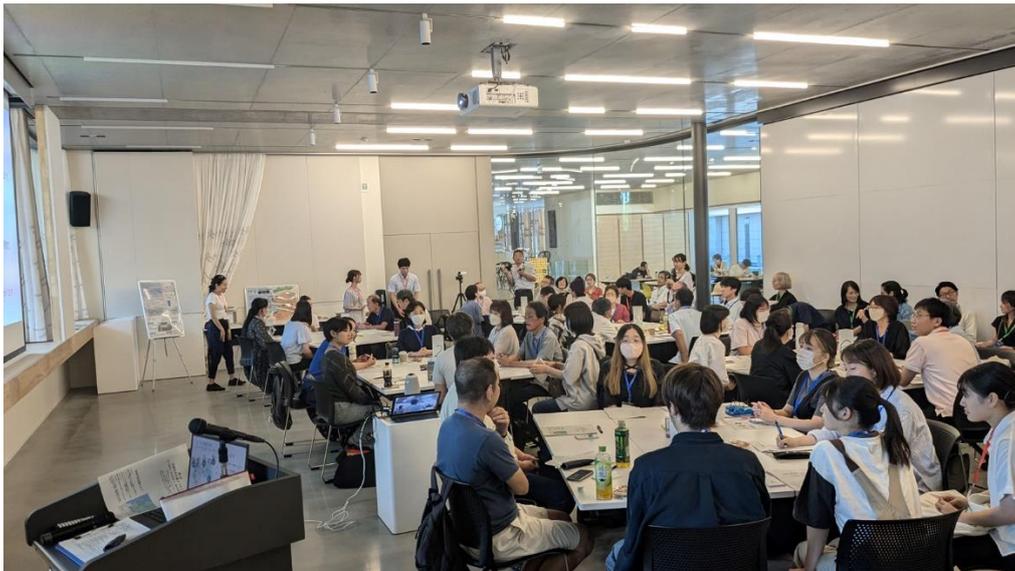
日 時 2024年9月7日(土) 13:00~17:00

会 場 松本市立博物館 講堂

参加者 参加者41名(欠席8名) 傍聴者15名 実行委員会関係者16名

プログラム

- ・開会挨拶
- ・気候市民会議の意義と気候市民会議まつもとの趣旨説明
- ・対話1 自己紹介を兼ねたワールドカフェ
- ・情報提供と質疑応答①
江守正多氏(東京大学未来ビジョン研究センター教授)
「気候変動問題の現状とこれからの社会」
- ・情報提供と質疑応答②
浜田崇氏(長野県環境保全研究所自然環境部主任研究員)
「松本市域における気候変動とその影響」
- ・対話2 今日の情報提供をめぐって① それぞれが学んだことの交換
- ・対話3 今日の情報提供をめぐって② 気候変動とその対策に関する疑問や心配ごと
- ・講評 江守正多氏、浜田崇氏
- ・事務連絡、閉会、アンケート記入



(会場：松本市市立博物館 講堂)

2. 実施内容

全体の進行は、気候わかもの会議まつもと（Y-CAM）のメンバーである矢花優太さん（信州大学理学部3年生）が担当しました。

（1）開会とオリエンテーション

開会あいさつを、気候市民会議まつもとと実行委員会委員長を務める茅野恒秀さん（信州大学人文学部准教授）と、松本市副市長の宮之本伸さんが行いました。

続いて、実行委員長とともに統括ファシリテーターを務める茅野恒秀さんによる、気候市民会議と気候市民会議まつもとの趣旨説明がありました。

気候市民会議とは？

なぜ？
社会の縮図となるように無作為に選ばれた数十人〜百数十人の参加者が、どのように？
バランスのとれた情報提供を受けて、参加者主体でじっくりと議論（熟議）し、何を？
議論の結果を提言などの形でとりまとめる。何のために？
とりまとめた結果は、脱炭素社会の実現に向けた効果的な政策・対策を生み出すために活用する。

※1970年代から複雑な社会課題の解決方法を話し合う「ミニ・パブリックス」の取り組み。
※2019年以降、欧州を中心に国と自治体の双方で気候市民会議(Climate Assembly)が多数展開。出典：KNOCOウェブサイト
<https://kno.co.jp/aoe-of-national-assemblies/>

松本市での開催は全国で18例目（19自治体目）

- ①長野県で初めて
- ②関東圏+政令指定市以外では初めて
- ③日本で最も西での開催
- ④日本で最も高い開催地

（信州大学人文学部准教授）

なぜ気候市民会議なのか？

地域課題解決と合わせた具体的な取り組みの例

- 市民や事業者の行動変容を起こすには、個人的、局所的な取り組みでは不十分。政策などの社会的な取り組みが必要。
- 排出削減に効果がある政策、取り組みはある程度明確。が、松本市や各地域には特性があり、解決方法は複雑。
- 異なる背景や経験を持つ多様な市民が集まり、問題について知り、ともに考え、話し合うことで、実効性のある対策が生まれる。

（各図は茅野恒秀氏作成）

気候区民会議が生み出している効果

- 【フランス】2019～2020年に政府が主催した気候市民会議の提言に基づき、近距離の飛行機の国内線の段階的整理や、商品やサービスの温室効果ガス排出量の表示の義務付けなどを含む**新たな法律が制定**され、すでにその一部が施行されている。
- 【英国】2020年に議会が気候市民会議を主催。結果は、**議会での気候変動対策の議論に活用**された。
- 【埼玉県所沢市】市が公式に行った気候市民会議の結果が、同市の環境基本計画の改定に反映された。
- 【神奈川県厚木市】市民団体と行政が協力して気候市民会議を開催。得られた**アクションプランを実行に移す、市民主導の「未来プロジェクト」**が始まっている。
- 【茨城県つくば市】市や研究機関が協働で開催した気候市民会議が作成した提言について、**市長が74項目すべてに対応することを約束**。市の**温暖化対策実行計画（区域施策編）の改定が1年前倒し**。

（各図は茅野恒秀氏作成）

気候市民会議まつもと (Climate Assembly Matsumoto, CAM)

松本市のゼロカーボンシティ実現へ向けた取り組みをさらに進展させるため、市民自らが行動すべき事柄を検討し、アクションプランとしてまとめ、松本市民および松本市へ提言することを目的として開催します。

松本市民 16歳～74歳の方
参加表明 をくださった方
選出者 年齢層、性別、居住地域のバランスを考慮して抽選

5000名 → 274名 → 50名
無作為抽出 → 約5.5%の方 → 抽選結果通知 最終意思確認

参加者 49名

参加者の皆さんはどんな方々？

参考：市民団体

- 深志町 (山田、沢村、藤田、池田)
- 深志町 (山田、沢村、藤田、池田)
- 長山町 (清田、山田、山田、山田、山田)
- 高野町 (山田、山田、山田、山田、山田)
- 向陽町 (山田、山田、山田、山田、山田)
- 西野ブティック (山田、山田、山田)

本日～今後の流れ

9月28日 (土) 第1回
テーマ：気候変動対策の取り組み
情報提供者：松本市、長野県、信州大学 (1名)

10月26日 (土) 第3回
テーマ：気候変動対策の検討①
情報提供者：第1回までの議論を受けて調整

11月16日 (土) 第4回
テーマ：気候変動対策の検討②
情報提供者：第3回までの議論を受けて調整

12月14日 (土) 第5回
テーマ：市民アクションプランの検討①

2025年1月20日 (土) 第6回
テーマ：市民アクションプランの検討②

2025年3月 気候市民会議まつもと 報告会

9月7日 (土) 第1回
テーマ：気候変動の現状
情報提供者：江守正多さん (東洋大学未来ビジョン研究センター教授)、須田直さん (気候変動確保全研附属自治体環境部主任研究員)

確認：会議の主役は参加者の皆さんです

気候市民会議まつもと (CAM)
参加者 無作為抽出された5000名 (16歳～74歳の松本市民)
参加意向を表明した方々
年代や居住地域などが松本市民の縮図となるように抽出された49名

松本市 環境エネルギー部 環境・地域エネルギー課
対話のお手伝い：デジタルリポーター、ファシリテーター
会議の見守り役：傍聴者

アドバイザー：三上直之、名古屋大学大学院教授
事務局：気候変動対策に関する専門家、気候変動政策に関わる行政機関、産業界、市民団体等を想定
事務局員：科研費基盤研究(A)「気候民主主義の日本における可能性と課題に関する研究」(研究代表者：三上直之)

(2) 対話1：自己紹介を兼ねたワールドカフェ

はじめに、第1回の7グループは居住地のまどまりに沿って配置したことを紹介した上で、グループ内で自己紹介を行いました。参加者の皆さんには、①（呼ばれたい）お名前、②松本の魅力についてお話しいただきました。

次に、年代構成に沿ってテーブルを移動していただき、グループ内で自己紹介を行いました。ここでは参加者の皆さんに、①（呼ばれたい）お名前とともに、②名札カードの裏面に「CAMをご自身にとってどんな場にしたいですか」という問いに今の気持ちをお書きいただき、それをご紹介します。

じつは地区別に
テーブルについていただいています



グループ内で自己紹介をお願いします。

- ① 「（呼ばれたい）お名前」
- ② 「松本の魅力って何？」

の2点を中心に、お一人1分程度で、
拍手でリレーしましょう。

※グループサポーターが加わります

地図・文法が：マドマド「まどまど」
<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/infocenter/00000001/>

テーブルを移動しましょう
(お座りいただかなくても大丈夫です)

各テーブルにマジックペンを用意してあります

「CAMをご自身にとってどんな場にしたいですか？」
名札カードの裏面にお書きください（時間をとります）

グループ内で自己紹介をお願いします。

- ① 「（呼ばれたい）お名前」
- ② 「名札カードの裏面に書いたこと」

の2点を中心に、お一人1分で、
拍手でリレーしましょう。



(3) 情報提供①

江守正多さん（東京大学未来ビジョン研究センター教授）に「気候変動問題の現状とこれからの社会」と題して、情報提供をいただきました。江守さんは気候科学をご専門とし、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第5次、第6次評価報告書の主執筆者として、世界の気候変動の評価にあたり中心的な役割を果たしておられます。



冒頭、江守さんから参加者の皆さんに対して3つの質問が投げかけられました。「気候変動問題にもともと興味があった」という方は全体の半数強、「気候変動は心配だ」という方はほぼ全員、「気候変動は止められると思う」という方はごく少数という結果となりました。この結果は、各地で江守さんが講演をする際の聴衆の反応とほぼ同じだということです。

情報提供は、まず地球の気温が形成・維持される仕組みに始まり、温室効果のメカニズム、温室効果ガスの大気中濃度が人間活動によって増加していること、人間の影響により19世紀末頃から比べて現在までに1.1℃の温暖化が生じていることが説明されました。温暖化によ

て海面上昇や洪水、強い台風、熱波、水不足、食料不足、生態系の損失、感染症、森林火災など様々な環境の変化が生じることが予測されています。たとえば海面上昇の進み具合を考えた時、今後、人間の影響を制御して温暖化の進行を低く抑えることができれば将来の海面上昇も低く抑えられるものの、対策が施されないままでは海面上昇の程度も大きく、速度も激しくなります。江守さんからはこれまでの小さな変化が突然大きな変化へと転換する「ティッピングポイント」という考え方が示されました。また気候変動は、開発途上国の人々や次世代の人々など、これまで温室効果ガスを大量に排出してきた原因には責任のない人たちが深刻な影響を受ける点で、倫理的な問題も呼び起こします。

地球温暖化防止の取り組みは世界で 30 年以上前から行われていますが、産業革命後の平均気温の上昇を 2℃以内（できれば 1.5℃以内）に制御するとして 2015 年に採択されたパリ協定は画期的な枠組みとなりました。しかし、人間活動による温室効果ガス排出量は現在も年々増加しており、現状の排出削減ペースはまったく足りていません。化石燃料に依存してきた世界のエネルギー源を、再生可能エネルギー中心に転換していくことが求められています。

温室効果ガス排出削減の手段は数多く存在し、IPCC はたとえば太陽光や風力発電、自動車や家電製品のエネルギー効率化や公共交通機関の利用などは従来の手段よりも安価である「マイナスコスト」と評価しています。気候変動対策が経済的にも合理的になっているのです。また気候変動対策は SDGs とのシナジー（相乗効果）が大きいのも特徴です。つまり、私たちの選択と行動によって、将来の世界の可能性が広がったり、狭まったりする、現在はその岐路に立っていると言えるでしょう。江守さんは、現状の社会を転換させるスピードや投資の規模は全く足りておらず、私たちの社会が化石燃料依存のパターンから抜け出せていないことを指摘し、脱炭素に伴う敗者を産み出さないように進めていきつつ、社会の「調整スピード」を加速させる必要があると、IPCC の最新の報告書の要点を解説してくださいました。

一方、日本では気候変動対策が生活の質を脅かすと考えている人が世界に比べて多いという調査結果もあり、社会の仕組みが変わり、人々の常識が変わる必要があると言います。私たちにできることは、対策が必要なことを理解し、対策を支持し、進め方に疑問があれば意見を言い、対策が進まなければ声を上げることが求められています。

江守さんの情報提供に対して、参加者からは以下の質問がありました。

参加者からの質問	情報提供者からの返答
1) CO2 排出をゼロに近づけなければならないということですが、逆に CO2 を吸収する技術の開発はどのくらい進んでいるのでしょうか。	CCS (Carbon dioxide Capture and Storage) といって、CO2 を地中に高圧で埋め込む技術がある。日本でも法整備が進んでいるが、適地がないのが問題になっている。世界では油田を活用する等の検討が進んでいる。 温室効果ガスを実質ゼロにする目標が世界で掲げられているが、大気中から CO2 を回収・貯留し、大気中の CO2 濃度を下げると

	<p>いうシナリオもある。ただしこの技術が可能になるのは 2050 年以降で、実行に移すために余計なエネルギーを使用してしまう。従ってそもそも CO2 を排出しないほうがよい。化石燃料を今まで通り使いながら、CO2 を取り除けばよいということではなく、CO2 排出を減らし、さらに取り除こうという方向で検討されている技術である。</p>
<p>2) 日本政府の排出削減目標があまり積極的ではないと聞かすが、なぜそのような保守的な姿勢になってしまうのでしょうか。積極的に行動するほうが経済的活力を生み出すことにつながると思うのですが。</p>	<p>日本の目標は他の先進国と同レベルとみてよい。ただし日本が国際的に批判されているのは石炭火力を使い続けているから。原発が停止した後、火力発電に大きく頼ってきたという経緯もある。</p> <p>日本がさらに野心的な目標を設定すべきとの声は市民団体などからもある。今の産業構造、経済構造を前提にすると、これ以上の積極的な取り組みは難しいとの姿勢が政府内にあるのかもしれない。現在、エネルギー基本計画や新たな温室効果ガス削減目標の設定が議論されているが、今までのやり方を前提にしているが故に新たな産業構造を志向しづらくなっているのかもしれない。</p>
<p>3) 気候変動対策のイメージについて、世界と日本で受け止め方の差が生じるのはなぜでしょうか。科学的な面だけでなく、哲学や思想面で対策を話しあう活動はあるのでしょうか。</p>	<p>気候変動に対して、これまでのやり方を脱却する考え方として「脱成長」という議論がある。物質的拡大を続けてきた従来の経済社会システムを続けていくことでは地球は持続できないとして、先進国では幸福と関係のない物質的成長は計画的に縮小していくべきという考え方。</p> <p>そもそもどういう社会を目指すのか、どういう幸せを目指すのかを、気候変動を契機に改めて考えるという流れになっているものと思われる。</p>
<p>4) 社会の大転換が必要だということだが、具体的にどういうものなのでしょうか。私たちができることは何なのでしょうか。</p>	<p>それを考えていただくのが気候市民会議の役割である。</p> <p>CO2 を排出しない技術はある。それを実現するためには、たとえば「カーボンプライシン</p>

	<p>グ」と呼ぶ、CO2 をたくさん出す者に税金をかけるという制度がある。そのような考え方に賛成したり、地域で同様の仕組みをつくるなどは大転換につながるもの。</p> <p>(統括ファシリテーターからの補足)</p> <p>太陽光発電などが火力発電よりも安価、マイナスコストになっているという情報提供があった。これを各世帯で導入することも、集積すれば大転換につながる可能性がある。個々人の行動変容と地球レベルの気候変動対策がはつながっている例ではないか。</p>
<p>5) テレビで日本が亜熱帯化している、黒潮が北上しているという報道を見ました。今後、排出削減が進めば、黒潮の流れが元に戻ることはあるのでしょうか。</p>	<p>基本的には黒潮の流路は自然に変動している。しかしながら、温暖化は水温を全体的に底上げするので、日本周辺の海水温が高い状態は、今後続き、さらに高くなっていくと見込まれる。</p>
<p>6) 気候変動に特段の関心がなく、気候変動対策は我慢を強いられるものだと思っていました。勉強不足を感じ、対策をしていく上では現状をまず知ることから始めなければならないと思います。そのためには意識を切り替えないといけないということがわかりました。今、日本に住む人々の気候変動に関する意識や知識レベルは、世界としてどの程度のものなのでしょうか。</p>	<p>肌感覚では「心配だ」というけれども、そこで思考が止まっている方が大多数。気候変動問題は抽象的で大きく、皆にとって継続的に関心をもってもらうことが難しい性質の問題であることは感じている。</p> <p>たまたま凄く関心を持った人がいれば、ご自身で声を上げたりしてほしいし、そうでない人はご自身のできる範囲でそれを支持したりしてほしいと願っている。</p>
<p>7) 私たちにできることについて詳しく知りたい。主婦で家のことに目を向けることが多いが、家を購入する機会がありそうなので、できることは何でしょうか。</p>	<p>近々家や自動車を購入するという人はとても大事。対策をしていない家を購入すると今後30年程度、それを使い続けることになる。自動車も15年くらい。高断熱・高気密な省エネ住宅で太陽光パネル、経済的に余裕があれば蓄電池など、できることは確実にある。自動車も電気自動車を選ぶとよいが、私自身はマンション住まいなのでまだ電気自動車に切り替えていない。次に家を建て替える、次に自動車を購入する時には脱炭素につながる手段をとってほしい。</p>

(4) 情報提供②

浜田崇さん（長野県環境保全研究所自然環境部主任研究員）に「松本市域における気候変動とその影響」と題して、情報提供をいただきました。浜田さんは気候学・都市気候学をご専門とし、自治体レベルの気候変動の実態と影響について研究を進めておられます。



浜田さんは長年、地域レベルでの気候変動とその影響について調査研究を進めている立場から、気候変動は地域毎に特徴があること、その影響は地域毎に違うことを知ることが大切だという指摘から、情報提供を始めました。たとえば、気温上昇という現象は東京では熱中症による救急搬送者の増加が代表的な影響となりますが、長野県内では降雪・積雪量が減ることによる影響が特徴的です。

松本市域には松本（標高 610m、年平均気温 12.2℃、年降水量 1045.1mm）、松本今井（同 658m、11.5℃、1102.2mm）、奈川（同 1068m、8.5℃、1946.8mm）、上高地（標高 1510m、年降水量 2721.3mm）と 4 つの気象観測地点があります。松本市は面積 1000km²と広いので、地域によって年平均気温や年降水量もじつに多様です。松本の平均気温は 100 年あたり約 2℃の上昇が観測され、地球温暖化が進行していると言えます。観測期間の短い市内の他の観測地点でも、やはり気温は上昇傾向が明瞭に見てとれます。月別に見た場合、気温上昇の大きな月は 2～3 月、5 月、7～8 月、9～10 月で、春の高温（サクラの開花の早まり、果樹の凍霜害）、夏の高温（農作物の高温障害）、秋の高温（カエデの紅葉の遅れ）で様々な影響が確認できます。猛暑日の日数は 100 年あたり約 20 日の増加、冬日は 100 年あたり約 53 日減少しています。1 年や 1 日単位で見た場合、全体としての降水量の変化は統計学的には確認できませんが、降雪量は減少している一方で、大雪が起きる傾向があります。

こうした気象環境の変化によって、農業、林業、観光業に影響が出ている他、人間の生活や自然生態系、水環境に様々な影響が生じています。ワイン用ぶどうの生産に適した環境となったり、暖房用のエネルギーが少なくて済むなど、短期的にプラスの影響もあります。今世紀半ばから今世紀末までの気温や最深積雪量などの将来予測は、信州気候変動適応センターのウェブサイトでも公表していますが、松本市域では平均気温の上昇、積雪量の減少などが予測されています。

最後に、今後の気候変動対策には、気候変動の原因となる温室効果ガスを削減する「緩和策」と、様々な生じる気候変動に影響に備える「適応策」の 2 つの対策があることをまとめてくださいました。

浜田さんの情報提供に対して、参加者からは以下の質問がありました。

参加者からの質問	情報提供者からの返答
<p>1) 先日、台風が日本に上陸したが、松本市には台風の影響があまりないように思います。これからは変化が見込まれるのでしょうか。</p>	<p>台風の数が増え、雨の量が増える可能性はある。実感されているとおり、長野県は周囲を高山に囲まれているので、基本的に雨が降りにくい環境にある。他地域と比べてそれほど影響は大きくないかもしれない。</p> <p>むしろ風が強いので、リンゴの収穫シーズンに果実が落下するなどの被害が心配。</p>
<p>(統括ファシリテーターからの質問)</p> <p>地球全体の平均気温の上昇が 1.1℃、また長野市と飯田市での観測によれば 1.3℃～1.4℃の上昇幅になっていることに比べて、松本市の 2℃という上昇幅をどう理解すればよいでしょうか。</p>	<p>平均気温の上昇幅の差については、よくわかっていない。温暖化の進む速度は極地のほうが速く、高標高地ほど進むという知見もあるので、標高差が影響している可能性はある。</p> <p>(江守さんからの補足)</p> <p>地球全体の平均気温は海上の温度を含む。海上の温度は陸上の温度よりも低いので、その影響があると考えらる。</p> <p>日本全体の温度上昇については、1890 年～1900 年を基準とする世界と同じ指標でのデータが気象庁にないため、比較が難しい。</p> <p>また雪が多い地域で、温暖化によって積雪が減少している地域では、雪があれば日射を跳ね返しやすいため、減少分だけ温度上昇が出やすいと考えられる。</p>

また、浜田さんから参加者に対する逆質問も行われました。

<p>・参加者の皆さんはどのような気候の変化を感じているのでしょうか。</p>	<p>1) 「暑くなっていると感じている」人は9割近い人が手を挙げた。</p> <p>2) 「大雨が増えたと感じている」人は、半数強の人が手を挙げた。とくに東山部や南部にお住まいの人々が多く手を挙げた。</p> <p>3) 参加者から「以前は、①松本市内から女鳥羽川の北、②●●から北、③平田から北、④波田を含めた新村から空港周辺、⑤寿の方面、⑥笹賀から塩尻方面、といった区分で雨の有無などが異なっていた」との経験則が示された。「近ごろ寿地区では強い雨が増えた」</p>
---	---

<p>・雪の減少は感じているでしょうか。</p>	<p>という発言があった。</p> <p>4) 浜田さんから、長野県内では時間あたり30mmを超える雨は稀にしか起こらないが、先日の松本空港周辺の集中豪雨は非常に珍しい出来事で、今後は局所的に豪雨が生まれやすい状況となるのかもしれない、今後も継続して調べていきたいとのコメントがあった。</p> <p>5) 「雪が減った」と感じる人は、ほぼ全員が手を挙げた。10代の参加者やY-CAMメンバーからも手が挙がった。雪で遊ぶ機会が減っている。</p>
--------------------------	---

(5) 対話2：学んだことの交換／対話3：感じた疑問や心配ごと

対話2と対話3は、冒頭の7グループごとに、江守さんと浜田さんによる情報提供から、学んだこと、感じた疑問や心配ごとを出し合いました。学んだこと、疑問や心配ごとはそれぞれ、付箋に書き出し模造紙に共有しました。

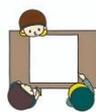
対話2 学んだことの交換 (15分)

江守さんと浜田さんの情報提供から、どんなことを学びましたか。

※お一人の持ち時間は2分程度と意識してみてください。

たとえば・・・

- 初めて知ったよ
- うすうす気づいていたけどこういうことだったのね
- というような「発見」
- 私はこう理解した、考えた
- 自分にとって、●●が、ためになった
- というような「気づき」

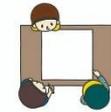


などなど、付箋にメモしたことをグループで共有しましょう。共有したことは模造紙へ貼り付けてください。

対話3 感じた疑問や心配ごと (15分)

気候変動の現状と、その対策に関して、どのような疑問や心配ごとを感じていますか。

- 今日の情報提供を受けて、感じた疑問や心配ごと
- 日常生活の中で、感じている疑問や心配ごと



などなど、付箋にメモしたことをグループで共有しましょう。共有したことは模造紙へ貼り付けてください。16:45が近づいたら、撮影させていただきます（画面共有のため）。



【グループ1】

Handwritten notes for Group 1 on a whiteboard. The notes are organized into several columns and rows, with a central character '学' (Learning) circled in pink. The notes discuss various topics related to climate change and energy, including:

- Climate Change and Energy:**
 - 気候変動対策をどうするか。日本の高エネルギー政策は、どうあるべきか。
 - 数値目標を定めていく必要がある。
 - 気候変動の目標と並行して、産業の成長、雇用の確保、生活の安定。
 - 気候変動の目標と並行して、産業の成長、雇用の確保、生活の安定。
- Energy and Environment:**
 - CO2を削減する政策がある場合は、必ず別の物質を消費して対応することは出来ない。
 - 核燃料の安全性をどう確保するか。
 - 核燃料の安全性をどう確保するか。
- Energy and Society:**
 - CO2を削減する政策がある場合は、必ず別の物質を消費して対応することは出来ない。
 - 核燃料の安全性をどう確保するか。
 - 核燃料の安全性をどう確保するか。
- Energy and Technology:**
 - 核燃料の安全性をどう確保するか。
 - 核燃料の安全性をどう確保するか。
 - 核燃料の安全性をどう確保するか。
- Energy and Policy:**
 - 核燃料の安全性をどう確保するか。
 - 核燃料の安全性をどう確保するか。
 - 核燃料の安全性をどう確保するか。

The central character '学' is surrounded by notes discussing the importance of learning and research in addressing these challenges. The word '疑問' (Question) is written in the bottom right corner.

【グループ2】

Handwritten notes for Group 2 on a whiteboard. The notes are organized into several columns and rows, with a central character '学' (Learning) circled in pink. The notes discuss various topics related to climate change and energy, including:

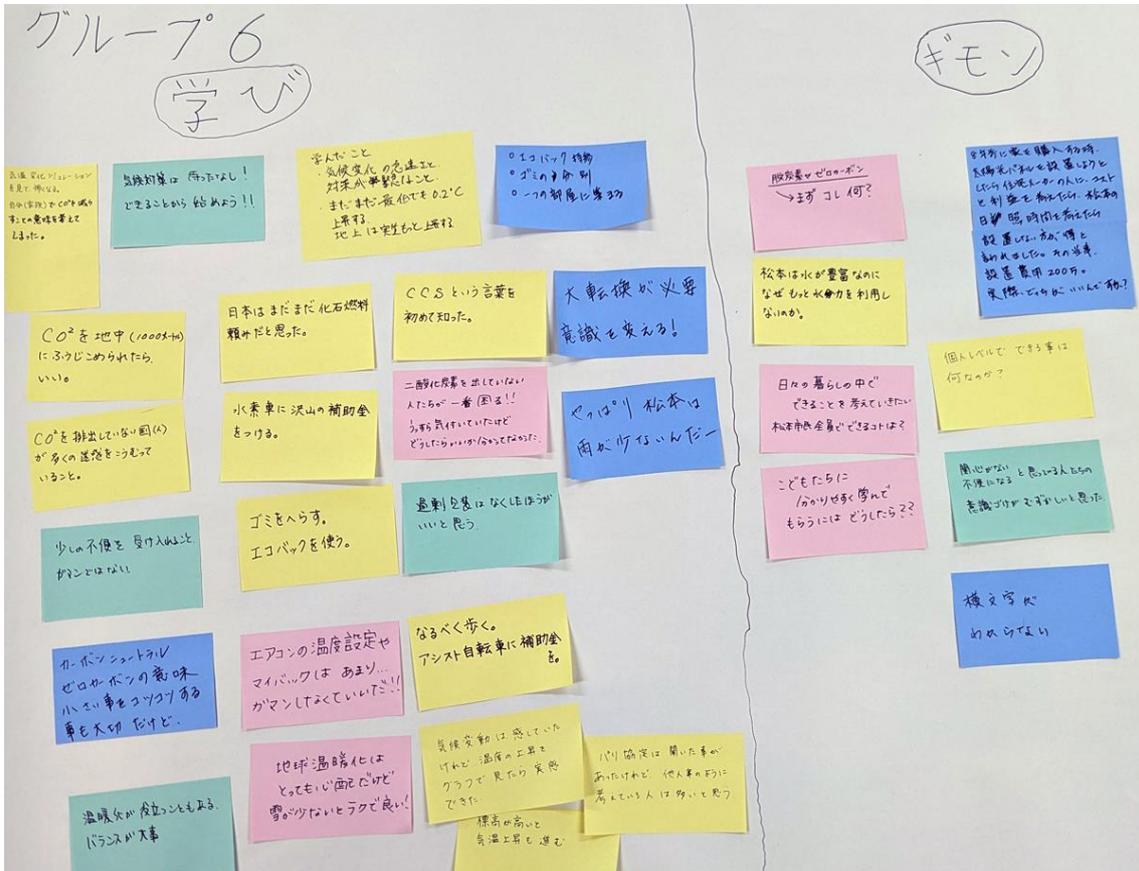
- Climate Change and Energy:**
 - 気候変動問題を考えることは、次の世代への贈り物ではないか? と考えた。
 - 世界は、世界の平均気温が1.5度上昇するのを防ぐ必要がある。
 - この道は、世界のために正しい道だ。
- Energy and Environment:**
 - 化石燃料の削減は、環境の悪化を防ぐために必要だ。
 - 化石燃料の削減は、環境の悪化を防ぐために必要だ。
 - 化石燃料の削減は、環境の悪化を防ぐために必要だ。
- Energy and Society:**
 - 化石燃料の削減は、環境の悪化を防ぐために必要だ。
 - 化石燃料の削減は、環境の悪化を防ぐために必要だ。
 - 化石燃料の削減は、環境の悪化を防ぐために必要だ。
- Energy and Technology:**
 - 化石燃料の削減は、環境の悪化を防ぐために必要だ。
 - 化石燃料の削減は、環境の悪化を防ぐために必要だ。
 - 化石燃料の削減は、環境の悪化を防ぐために必要だ。
- Energy and Policy:**
 - 化石燃料の削減は、環境の悪化を防ぐために必要だ。
 - 化石燃料の削減は、環境の悪化を防ぐために必要だ。
 - 化石燃料の削減は、環境の悪化を防ぐために必要だ。

The central character '学' is surrounded by notes discussing the importance of learning and research in addressing these challenges. The word '疑問' (Question) is written in the bottom right corner.

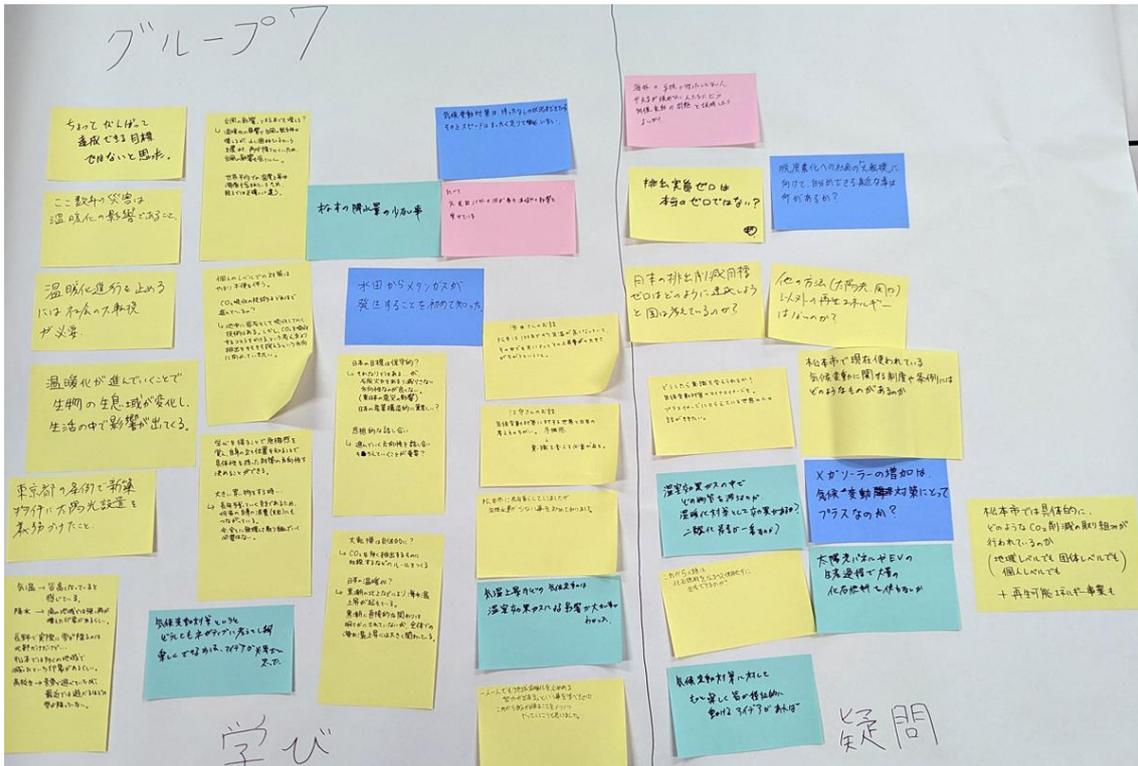
【グループ5】



【グループ6】



【グループ7】



(6) 講評

グループ対話の様子をご覧いただいた江守さんと浜田さんにコメント、講評をいただきました。まず、グループ対話で出された疑問点や心配ごとのうち、特に情報提供者のお二方に質問したいことを出していただきました。

参加者からの質問	情報提供者からの返答
<p>1) 今ある住宅を使い続けることと、断熱性能の高い住宅に建て替えることはどちらがよいのでしょうか。また自動車についても同様で、今の自動車を電気自動車に買い換えることはどちらがよいのでしょうか。</p>	<p>住宅については、今ある住宅を断熱改修できるならばそのほうがよいと考える。</p> <p>電気自動車はやや複雑で、バッテリーの製造時にたくさんのエネルギーを必要とすると指摘されている。ただしガソリン車と電気自動車の生産から廃棄までのライフサイクルを合計した CO2 排出量は、電気自動車のほうが少なくなる。今後、電力会社の排出係数が低くなるため、今この瞬間で比べても電気自動車のほうが脱炭素を実現するためには有効であると考えます。</p> <p>2050 年には、走っている自動車の全てが排出量ゼロになっている必要があります、全ての発電</p>

	<p>所が排出量ゼロになっている必要がある。そのためには、現時点ですできるだけ電気自動車が普及している必要があるし、2050年の15年前くらいには新規販売される自動車は全て電気自動車になっている必要がある。世界では電気自動車の販売は急速に伸びている。日本は普及が遅れていて、充電設備の整備が進んでいないことも要因。今、電気自動車に切り替えると充電設備の不便さを感じてしまうが、次に自動車を買換える時には電気自動車を選択肢にする、という構えていただきたい。(江守さん)</p>
<p>2) 太陽光のコストについて、わが家にも屋根についているのですが、設備が寿命を迎え、廃棄になったときにリサイクルがとても難しいという話を聞いたことがあります。コストは使うところから廃棄までを考えてマイナスコストになるという考え方でよいのでしょうか。</p> <p>リサイクルが難しいという話は、昨年、ニュースで耳にした。</p> <p>産業廃棄物関係の業界に近いところで仕事をしているが、現状では、廃棄パネルは県外の最終処分場に出ているところ。業者が引き受ける時の価格も非常に高い。簡単ではないというのが事実であると思う。そこはまだこれからの技術ではないか。</p>	<p>IPCCの報告書では、新しく火力発電所を建てるよりも、同じだけの発電量を賄う太陽光発電所を建てたほうがコストが安い(=マイナスコスト)という結論になっている(※実行委員会注：ライフタイムコストでの比較なので、生産から廃棄まで考慮されている)。CO2の排出量という点では、製造時を含めて太陽光発電のほうが明らかに少ない。リサイクルが難しいという見解は、いつ頃の見解だろうか。(江守さん)</p> <p>リサイクルは技術的に可能。ガラスとシリコン、金属などで構成されており、政府もリサイクルの義務化を検討している。今後大量廃棄の時代が来たときに、それにあわせて工場の設備投資や回収ルートが確立するかどうかは問題になっているとは聞いている。リサイクルが義務化されることが前提の考えを、政府も持っているはず。(江守さん)</p>

最後に、情報提供者のお二方から講評をいただきました。

(江守さん)

今日は取えて大きな話をお聞きいただいた。それは、気候変動問題に向き合うには、一度は地球レベル、世界レベルのスケールでの理解が必要だからで、ご理解いただきたい。

グループ対話では「話が大きすぎて自分からは遠く感じてしまう」という話もあったが、それはその通りと思う。しかし世界は今、この問題に一丸となって取り組んでいることをわかっていたいただきたい。パリ協定は全ての国が合意し、目標を立てて、取り組んでいる。アメリカと中国も、気候変動問題では一生懸命対話をしている。中国が CO2 排出量の最も多い国だが、同様に太陽光パネルも電気自動車も最も多く導入している国である。各国の対策は産業政策とつながっている。これからは CO2 を出さない世界に変わっていくことを前提にしながら、産業構造や様々なルールを作り替えていく競争が世界で始まっていると言ってよい。こういう文脈を共有させていただきたかった。

単純に全てがうまく行っているわけではないが、世界は間違いなく動いている。その中で世界の一部として日本があり、日本の一部として松本市がある。そう考えると、ご自身の考えることが世界の動向とつながっていると感じられるのではないか。

今後、様々な情報提供を受けながら、具体的に考えていただくことになるが、こうした世界の動きを頭の片隅に置きながら取り組んでいただきたい。

(浜田さん)

今日は松本市域の状況をお話ししたが、インプットに対して、ご自身の経験則や実感と合致すると「ああ、なるほど」と思っていただけの場面があったかと思う。こうした気持ちを忘れないでいただきたい。

私も子どもが3人おり、子どもたちと話していると私も気づくことが多い。人との対話の中で深く考える機会や思考が転換するきっかけも得られるかもしれない。

この会議は1月まで続く。半年間は短い期間かもしれないが、この会議の中でぜひ対話を続けて検討を深めていただきたい。

(7) 閉会

全体進行を務めた気候わかもの会議まつもと (Y-CAM) の矢花優太さん (信州大学理学部3年生) から、参加者の皆さんが気候変動について身近に感じていることがあること、矢花さんも親戚宅が2019年の台風19号豪雨災害で被害に遭った経験などをふまえ、Y-CAMに参加することを決めたこと、江守さんと浜田さんから学べたことのまとめが述べられ、「6回の会議で松本市民ができることを考えていき、微力かもしれないが無力ではないことを知り、松本市から世界に広がるような会議にしていきたい」という力強い決意で第1回を閉じました。

3. 対話2（それぞれが学んだこと）の結果

(グループ1)

- ・気候変動対策を行っていくには、日本人の意識から改めていくことが必要だと感じた。
- ・EV、太陽光など身近なところを一人一人が変えることの効果が結構大きいと知ったのは意外。
- ・今の取組み、削減ペースだと次の世代に持続していかない。
- ・数値をみることによって自分が思っているよりも深刻だと感じた。
- ・気候変動への日本と海外の意識の違い。変えた方が良いかな。
- ・松本の2~3月の気温の上昇。朝の自転車がそんなに寒くないので、やっぱりと。
- ・常識から変えていくには、まずみんなが温暖化について正しい知識をつけることが必要だと思った。
- ・降水量は減っている印象があったが、松本周辺ではあまり変わっていないとは知らなかった。
- ・温暖化に対処することは費用がかかって損なことも多いと思っていたが、海外ではそういう考え方は少ないのは意外だった。
- ・気温が上がることでどのような影響があるのかわかり、より一層、しっかりとした対策をしていきたいと思った。
- ・農作物や生活だけでなく、観光にもダメージがある。観光地・松本としても大きなダメージ。
- ・化石燃料利用量が増加している（世界で削減しようとしているのに）。
- ・脱炭素のために社会の「大転換」が必要。
- ・松本地域の降水量に変化が見られない。
- ・気候変動対策、ガマンしなくていい！まずは今できることから始めたい。
- ・天候があれやすかったり変化は感じてはいたが、今回の話で仕組みを知って理解できた。
- ・自分たちに何ができるのか考えるきっかけになった。
- ・知らない事が多く1人1人が意識していくために認知度が重要だと思った。
- ・対策の為に家や車などプラスでお金がかかる（高い）からその為の資金の補助などがあれば良いと思った。
- ・自分の普段しているどのような行動がどのようなエネルギーをどれだけ使っていて、地球温暖化にどれだけ影響しているのか、可視化すると良いと思った。

(グループ2)

- ・気候変動問題を考えることは、次の世代への贈り物ではないか？と考えた。
- ・社会の大転換がおきないかぎり止められない。大転換なんておこせないからムリ！→大転換をおこすアクションを。

- ・世界：生活の質 up 日本：生活の質 down この違いはなんで？世界のようになりたい！
- ・化石燃料があっても使わないという意識の変化のように、「気候変動対策」≠がまんという考え方にかわるのが大事と知った。
- ・今、行動をおこさないと将来（子孫）の世界がとんでもないことになること知った。
- ・職場で除雪機を導入したが、それ以降使用する事がなくなり雪が降らないと実感している。
- ・「脱炭素化」はしぶしぶ努力して達成できる目標ではない！うすうす感じていたがお話を聞いてよく理解できた。
- ・大きさは問わず一つの行動が未来を変えている、変えていくのではないかと強く感じた。
- ・日本の恵まれた環境の中でどの様に変化させていくか、「気候市民会議まつもと」をそのきっかけとしたい。
- ・気候変動の現状（今までのデータ）と人間の影響要因のシミュレーション結果。
- ・産業革命より早く大きなスピードで改革が必要ということ。
- ・松本市が最も高い開催地であるということ。

(グループ3)

- ・生活の質をおとさなくても対策はできる。
- ・日本の排出削減目標は徐々に進んでいる。2030年の目標もクリアー可能？
- ・気候変動の対策は今すぐ行動をおこすべき。
- ・社会の大転換、常識を変える必要がある。
- ・太陽・風力発電はマイナスコスト（コストパフォーマンスがよい）。
- ・文明の変化。
- ・なぜ私たちが今、すぐにでも CO2 の排出削減に取り組むか→少なくとも物理的に CO2 を吸着、埋設する技術の実用は数十年先となるので、まずは出さない事が大切。

(グループ4)

- ・気候変動対策は我慢じゃなく常識の転換。
- ・地球は絶対絶命だ。
- ・生活の質を落とす対策は続かない。
- ・今選択する行動によって 50 年後など次の世代の環境に大きな影響を与える。
- ・暑くなったなと感覚的に思っていたが、データとして教えてもらい暑くなっているとはっきりわかった。このまま上昇していくとこわいと思った。
- ・「石器時代が終わったのは石がなくなったからではない」という言葉に共感した。
- ・気温があがることで農作物に出る影響を具体的に知ることができた。
- ・ゼロカーボンとは排出量をゼロにすることを理解した。
- ・新築を建てる際、来年から法律が変わることを知った。
- ・地球の温度上昇が思ったより高い。特に松本地区。

- ・高温になったときの対策として電気器具を少なく使用。
- ・松本地区の雨量が減少している。
- ・我慢は最小限、工夫。
- ・温暖化防止≒SDGs 実現！！
- ・温暖化防止は他人事ではなく、今すぐみんなで行動を起こさなければならない。
- ・雨の量が減ってきているので、水の使用（家庭、公園）を減少させる。

(グループ5)

- ・一次産業の化石燃料文明卒業ってムズかしそう。
- ・現状の対策のペースだと温暖化はよくなる。
- ・温暖化の実態と対策の重大さ。
- ・排出削減の大部分は安価なコストで実現できる。
- ・今すぐできること、個人レベルとなるとあまり具体的に...すぐ思い浮かばなかった。
- ・温室効果ガス CO2 以外とは？（全体の 25%位）
- ・気候変動対策は健康とのシナジーが多い。
- ・通勤時間での渋滞の解消対策を実施する事による温暖化対策。
- ・海沿いの発電所の電力使用を減らすためにも地域での発電を増やすことが必要。
- ・気温や雨量などの気象実態の可視化の必要性。
- ・実質ゼロは難しくてもやらなければならないこと。
- ・やるべきことが理解できていない。
- ・日本は気候変動対策に対して、他の国に比べてネガティブ。
- ・具体的な数値で変化が分かり、稲刈りの時期の変化など身近なことの変化の原因が分かった。
- ・気候変動対策が生活の質を落とすものではないと日本以外が思っているということ。→どう思っているか。
- ・人間の影響による温暖化には「疑う余地が無い」という事実。

(グループ6)

- ・気温変化シミュレーションを見て、怖くなる。自分（家族）でCO2を減らすことの意味を考えてしまった。
- ・気候対策は待たなし！できることから始めよう！！
- ・気候変化の急速さと対策が緊急なこと。
- ・まだまだ最低でも0.2°C上昇する。地上は実質もっと上昇する。
- ・エコバッグ持参、ゴミの分別、一つの部屋に集まる。
- ・CO2を地中（1000メートル）に封じ込められたらいい。
- ・日本はまだまだ化石燃料頼みだと思った。
- ・CCSという言葉を知った。
- ・大転換が必要、意識を変える！
- ・CO2を排出していない国（人）が多くの迷惑をこうむっていること。

- ・水素車に沢山の補助金をつける。
- ・二酸化炭素を出していない人たちが一番困る！！うっすら気づいていたけど、どうしたらいいか分かってなかった。
- ・やっぱり松本は雨が少ないんだー。
- ・少しの不便を受け入れること。ガマンではない。
- ・ゴミをへらす、エコバッグを使う。
- ・過剰包装はなくしたほうがいいと思う。
- ・カーボンニュートラル、ゼロカーボンの意味。小さい事をコツコツする事も大切だけど。
- ・エアコンの温度設定やマイバッグはあまり、、、ガマンしなくていいだ！！
- ・なるべく歩く。アシスト自転車に補助金を。
- ・温暖化が役立つこともある。バランスが大事。
- ・地球温暖化はとっても心配だけど、雪が少ないとラクで良い！
- ・気候変動は感じていたけれど、温度の上昇をグラフで見たら実感できた。
- ・標高が高いと気温上昇も進む。
- ・パリ協定は聞いた事があつたけれど、他人事のように考えている人は多いと思う。

(グループ7)

- ・ちょっとがんばって達成できる目標ではないと思った。
- ・ここ数年の災害は温暖化の影響であること。
- ・温暖化進行を止めるには社会の大転換が必要。
- ・温暖化が進んでいくことで生物の生息域が変化し生活の中で影響が出てくる。
- ・松本の降水量の少ない事。
- ・気候変動対策は待ったなしの状況まできている。その上スピードはまったく足りていない。
- ・先進国以外の国が最も温暖化の影響を受けている。
- ・水田からメタンガスが発生することを初めて知った。
- ・松本は100年で4℃気温が高くなっていて、その中でも月によってその上昇量の大きさがちがうということ。
- ・東京都の条例で新築物件に太陽光設置を義務づけたこと。
- ・気候変動対策に対する世界と日本の考え方の違い。危機感→意識を変える必要がある。
- ・松本に長年暮らしていましたが、年降水量が少ない事を初めて知りました。
- ・気温上昇などの気候変動は温室効果ガスによる影響が大きい事がわかった。
- ・一人一人でも地球温暖化を止めれる努力が出来るという事を学べたので、これから自分出来ることを1つ1つやっいていこうと思いました。
- ・気候変動対策というどうしてもネガティブに考えてしまいます。楽しくできる方法、アイデアが必要だと思った。

4. 対話3（気候変動とその対策に関する疑問や心配ごと）の結果

※疑問点と心配ごとは実行委員会スタッフの観点から分けています。

※文意を少しだけ補っているものがあります。

（グループ1）

【疑問点】

- ・CO₂を封じ込める技術があることは分かったが、別の物質に変えて対策することは出来ないのか。
- ・耕作放棄地などに植物を植えてCO₂を吸収する環境を増やすことは出来ないか。
- ・結局的にもっと先進的、野心的な目標にして研究・技術・取り組み等。どうやってできるかな。
- ・どうしたらより良い未来にできるか。
- ・具体的にガマンしない対策とは何なのか。
- ・本当にCO₂排出量をゼロにすることは可能なのか。
- ・対策をする中で人にとって害のないものだけでCO₂を減らすことができるのか。
- ・子どもたちが負担にならないようにしたい、、、けどCO₂排出量ってゼロにできるの。
- ・再生可能エネルギーの施設を建設する際の排出される温室効果ガスはどのくらいなのか。
- ・「発電所を壊して再建設しクリーンにする」と「今あるものをそのまま使う」とどちらのほうが環境にいいのか。
- ・今すでに被害を受けている人々への対策を考えることが、今後苦しむ人々への解決策になるのか。

【心配ごと】

- ・"寒い"が信州の良いところの一つだと思っているけど、魅力が減っちゃう
- ・若い世代が影響を受けてしまうという衝撃。
- ・温暖化を完全に止めることはできないと思うので、涼しさが魅力の長野の観光業などが心配。

（グループ2）

【疑問点】

- ・太陽光発電のゴミ問題もあるけど推進して大丈夫か。
- ・原子力に頼らずにCO₂減らせるのか。
- ・新築より中古住宅の方が、新車より中古車の方が炭素を出さないのでは。
- ・国、労働者、資本家、消費者、誰がCO₂削減に取り組むのか。
- ・再生可能エネルギーの発電のものは理想のように急激に増やすことができるのか。
- ・EVって本当に脱CO₂なのか。火力発電が主な日本では違うのでは。

・海外の方との環境問題・気候変動についてのディスカッションが個人や日本に良い刺激を与えるのでは。

・エネルギーの変化はどのようになされていくのか。

・活動の範囲やスピードはどのようなものか。

・CO2埋蔵技術でOKなのか。

・CO2を多く排出している国（地域）、産業、消費行動について知りたい。

【心配ごと】

・次の世代で起きるであろう様々な問題を考えると漠然とした不安を感じてしまう。

・森林（保水、水路）の荒れ。

・気候変動問題を考えた時に人間の活動が人間の生命をおびやかしてしまうことに強い恐怖を感じる。

・次に行動する時には時代にそった行動をできるとよいのかな。

(グループ3)

【疑問点】

・どこに家を建てれば安全なのか。

・今現在、作物などにどのくらい損害が出ているのか。

・食物不足になるのか。

・今後の地球で子どもを産んでも育てられるのか。

・今日ここで学んだことを多くの市民に知ってもらうには、どうしたら良いのか。

・個々の思いが同じ方向になるには。

・松本の気温は高くなっているが、降水量が変わらない理由は。

・松本の気象観測地点は市内のコンクリート化、道路のアスファルト化に関係しないのか。

・太陽光パネルの廃棄問題は。

・個々の専門分野はどこまで対策しているのだろうか。

・EVを作る時のCO2、走らせるための電気をつくるためのエネルギーは。

【心配ごと】

・気候よりも早く解決して欲しい問題が。

・ソーラーパネルが寿命となった時、クリーンエネルギーと引き替えに出る有害な廃棄物のこと。

(グループ4)

【疑問点】

・広報はどのように行われているのか。

・メガソーラーはどうなのか。

・災害をエネルギーにできないか。

・太陽光の廃棄も含めたコスト。

・電気自動車

・EV車は太陽光、高断熱・高気密の家にかかるコスト。

【心配ごと】

(グループ5)

【疑問点】

- ・温室効果ガスについて、CO2以外のものとはどのようなものか。
- ・ガマンも多少は必要なのかもしれない。
- ・CO2排出実質ゼロは可能なのか。
- ・森林を増やしても誰が管理するのか。
- ・身近にできる取り組みを知りたい。
- ・子どもたちと楽しみながらできることは何か。
- ・ソーラーパネルは本当にいいのか。
- ・今の生活を維持したまま進めていくのか。
- ・車も家も買い換える予定はないが、大きなインパクトを今出せる取り組みは。

【心配ごと】

- ・この先、地球はどうなるのか。
- ・気候変動の影響があると共感した。今年、川で遊んで1匹もハヤを見ていない。
- ・確かに農作業がしにくくなっている。生産量が上がらない。
- ・松本の過ごしやすい気候が変わってしまう可能性があるのが不安。
- ・自分に実際に危機がふりかからないと大転換は起こらなさそう。

(グループ6)

【疑問点】

- ・脱炭素やゼロカーボン、まずコレは何か。
- ・松本は水が豊富なのになぜもっと水力を利用しないのか。
- ・8年前に家を購入する時、太陽光パネルを設置しようとしたら住宅メーカーの人に、コストと利益を考えたら、松本の日照時間を考えたら、設置しない方が得と言われました。その当時、設置費用200万円。実際どちらがいいんですか。
- ・個人レベルでできる事は何なのか。
- ・日々の暮らしの中でできることを考えていきたい。松本市民全員でできることは何か。
- ・子どもたちに分かりやすく学んでもらうにはどうしたらよいか。

【心配ごと】

- ・関心がない、不便になると思っている人たちの意識づけが難しいと思った。
- ・横文字がわからない。

(グループ7)

【疑問点】

- ・海外の学校に行ったことのない人や文字が読めない人たちにどう気候変動の問題を説明したらよいか。
- ・排出実質ゼロは本当のゼロではないのか。

- ・脱炭素化への社会の「大転換」に向けて、自分ができる身近なことは何があるか。
- ・日本の排出削減目標ゼロはどのように達成しようと国は考えているのか。
- ・他の方法（太陽光、風力）以外の再生可能エネルギーはないのか。
- ・どうしたら意識を変えられるか。気候変動対策のマイナスイメージをプラスイメージとらえている世界の人の話が聞きたい。
- ・松本市で現在使われている気候変動に関する制度や条例にはどのようなものがあるのか。
- ・温室効果ガスの中でどの物質を減らすのが温暖化対策として効果があるか。二酸化炭素が一番なのか。
- ・メガソーラーの増加は気候変動対策にとってプラスなのか。
- ・これから人類は化石燃料をなるべく使用せずに生活できるのか。
- ・太陽光パネルや EV の生産過程で大量の化石燃料を使わないのだろうか。
- ・気候変動対策に対してもっと楽しく皆が積極的に動けるアイデアがあれば知りたい。
- ・松本市では具体的にどのような CO2 削減の取り組みが行われているのか（地域レベルでも、団体レベルでも、個人レベルでも）。再生可能エネルギー事業も知りたい。

【心配ごと】

5. 実施後の参加者アンケート

会議実施後に参加者にアンケート調査を実施しました。42名の参加者中37名にご回答をいただきました。アンケート調査票と回答の集計結果は以下のとおりです。

第1回 気候市民会議まつもと (2024年9月7日)
参加者アンケート

本日は、第1回気候市民会議まつもと (CAM)にご参加いただき、ありがとうございます。
このアンケートは、気候市民会議での熱議を実りあるものにするために、また今後のCAMの運営に活かすため、参加者の皆様にお聞きするものです。無記名でご回答いただきます。

【ご回答の方法】①か②のいずれかでお答えください
①右のQRコードまたはURLからアンケートフォームへアクセス
Webでご回答 (ご回答期限: 2024年9月8日)
②この用紙に回答を記入し、お帰りの際にご提出
(両面印刷してあります。ご注意ください。)



アンケートフォームURL
<https://forms.gle/iAZMqWfq7KCDw0bN7>

それでは、よろしくお願いいたします。

質問1. 最後の対話で参加したグループの番号(1~7)をご記入ください。

グループ番号 []

質問2. 情報提供の内容は、わかりやすかったですか。
次の中からもっとも近いものをお選びください。

1. 非常にわかりやすかった
2. どちらかといえば、わかりやすかった
3. ふつう/どちらともいえない
4. どちらかといえば、わかりにくかった
5. 非常にわかりにくかった

質問3. 情報提供の内容は、偏りがなく適切だったと思えますか。
次の中からもっとも近いものをお選びください。

1. 非常に適切だった
2. どちらかといえば、適切だった
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば、適切ではなかった
5. 非常に適切ではなかった

質問4. グループでの対話では、あなたは思ったことを発言できましたか。
次の中からもっとも近いものをお選びください。

1. よくできた
2. どちらかといえば、できた
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば、できなかった
5. よくできなかった

質問5. グループでの対話の際、参考になったことは何ですか。
次の中からあてはまるものをお選びください。

1. 会議に参加する前から知っていた情報や知識
2. 会議での情報提供
3. 他の参加者の発言
4. その他 (具体的にお願いします)

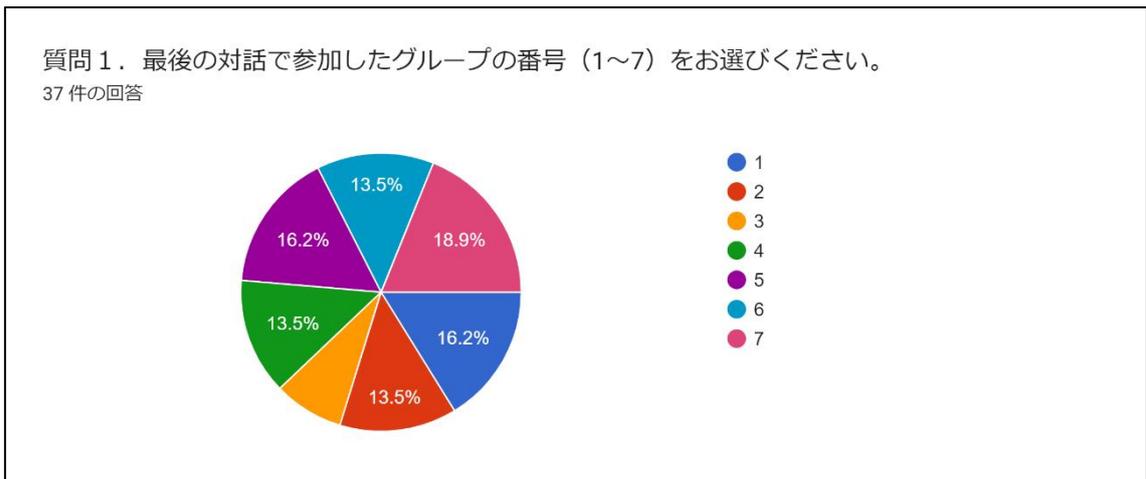
質問6. 今後の会議資料の受け取り方法について、あなたのご希望をお聞かせください。

1. 紙の資料配付を希望する
2. 紙の資料配付を希望しない (クラウドやメール送付があれば、PCやタブレット、スマートフォンなどで資料を確認できる)

質問7. 第1回会議に参加してみて、今後の会議であなたが「大切にしたいこと」は何でしょうか。自由にお書きください。

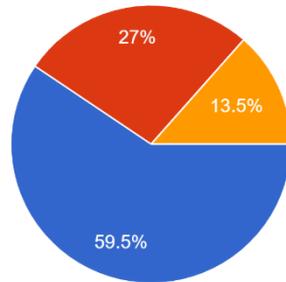
質問8. 本日の会議運営について、お気づきの点がありましたらご記入ください。

ご協力いただきありがとうございました。
(気候市民会議まつもと実行委員会)



質問 2. 情報提供の内容は、わかりやすかったですか。

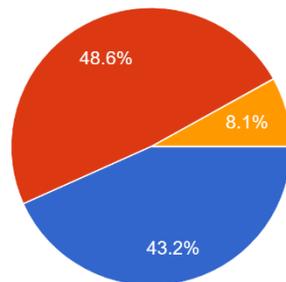
37 件の回答



- 非常にわかりやすかった
- どちらかといえば、わかりやすかった
- ふつう/どちらともいえない
- どちらかといえば、わかりにくかった
- 非常にわかりにくかった

質問 3. 情報提供の内容は、偏りがなく適切だったと思いますか。

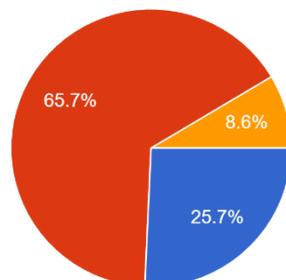
37 件の回答



- 非常に適切だった
- どちらかといえば、適切だった
- どちらともいえない
- どちらかといえば、適切ではなかった
- 非常に適切ではなかった

質問 4. グループでの対話では、あなたは思ったことを発言できましたか。

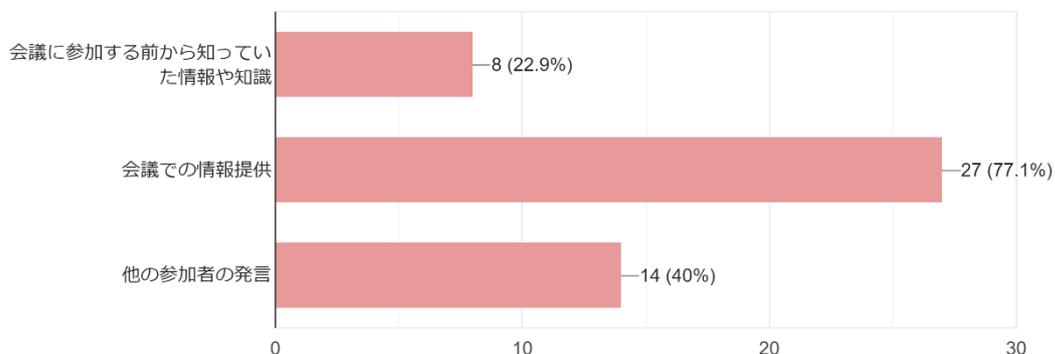
35 件の回答



- よくできた
- どちらかといえば、できた
- どちらともいえない
- どちらかといえば、できなかった
- よくできなかった

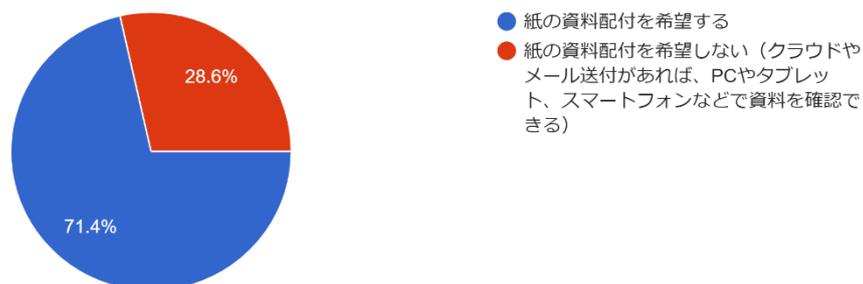
質問5. グループでの対話の際、参考になったことは何ですか。

35件の回答



質問6. 今後の会議資料の受け取り方法について、あなたのご希望をお聞かせください。

35件の回答



質問7. 第1回会議に参加してみて、今後の会議であなたが「大切にしたいこと」は何でしょうか。自由にお書きください。

気候変動対策について意識を変えること
皆さんとの対話
地球環境が悪化しないように、一人一人できること(SDGsに)意識して行動しようと思いました。
自分の感じたことと他の人の感じたこと双方を合わせて考えていくこと
気候変動対策は待ったなしの問題ということは今日の学びではっきりとわかったのですが、それに対する行動が我慢することではないということについて、自分の中に落とし込んでいけるのか、しっかり考えていきたい。
他人の意見に引っ張られぬよう、自分の意見に自信を持つこと。
松本市としての活動が実践に至ること に到達できるなにかができること

自分が言いたい、の発言会議から、みんなと実践したいの発言会議に発展していくこと 木や水が整い、増えていくこと 1人も取りこぼさずに意見が言えること
一人一人の意識を変える
温暖化を防ぐよりも活用する方法がないかを考えてみたい。
環境のこれからをもっと学ぶこと
積極的に発言、対話してみること
グループでの対話の際、もっと積極的に発言すること。 疑問に思ったことを、講師の方に質問すること。
参加者との対話を通じて自分になかった考えに触れること
(参加した限りは)何か形を残そうという意思。
今の状況と問題に対する意識
学びと対話 真実の現状
人との対話をしっかりすること。
いろんな年代、地域、立場の方々の意見や情報を尊重して一緒に考える、対話することを 楽しみたいですし、自分の考えを伝える努力をしていきたいです。
自身の課題と気づき、そしてアクションプラン
気候変動のことを知りたく参加しました。子供さん（低学年）の方にもっと広められれば と。
正確な情報を得ること
世代の違う方々と話をするを大切にしたい。
思ったことを伝える。
あいてのいけんをきき、自分とひかくすること。
対話では口をはさまず、なるべく素直に意見を聞きたいと思います。
実現可能かどうか。
周りの意見をたくさんきく。自分からも発信する。
グループ内での活発な議論（熟議）への参加及実施。
地域を見つめなおしたい
「脱炭素」は大切なんだということを、なんとなく思っていたけれど（他人事）、なんとなく ではなく自分事として考えられるように学んでいきたいと思いました。
まずは今おきている問題を具体的に知ることが大切で、小さなことにも疑問に思うこと。
CO2を排出しないという意識。

質問8. 本日の会議運営について、お気づきの点がありましたらご記入ください。

もう少しディスカッションの時間がほしいと感じた
特にありません

丁寧な対応だったと思います
リラックスした雰囲気の中で、意見を言いやすく運営されていたなと思いました
気候変動について、あまり関心がある方ではなかったのですが、大変学びのある回でした。
今後の会議でも様々な学びができること、楽しみにしています。
心のあたたまる会議でした 運営の皆様にとっても感謝いたします 可能でしたら、飲食については、ゴミのお片付けが発生しないものをご検討ください スタッフさん達も（お掃除の職員さんも）心地良く思える環境であると嬉しいと思いました た よろしくをお願いします
横文字を理解しているとして話を進められるとそこで思考が止まってしまう。多分、今の中学生以上なら理解している言葉なんでしょうが、私たちの世代には無かった言葉、例えば、サステナブル、ゼロカーボンなど。そして理解している前提で話されてたSDGsの意味もわかりません。資料の字が小さすぎて読めないです。これからの子供たちの未来の為に今から実践していきたいです。今日の最後に出た太陽光発電について、もっと理解したいです。
グループ討議のリードに入った学生さん？のリードのレベルがテーブルによって随分差があったように思います。是非事前の準備や意識合わせをしていただけたらと思います。
大変勉強になり有意義な会議でした。ありがとうございました。
色々な世代の皆さんと交流出来るのが良かった。
会議の進行がスムーズだった上、飲み物やお菓子も用意されていて、非常に快適に過ごせました。ありがとうございました。
このアンケートの『質問5』が、複数回答できませんでした。（※実行委員会注：Googleフォームの設定ミスが当初あり、修正しました）
若干場所が狭く感じた。人の行き来がちょっと煩わしい。
初回だったのでやむを得ないと思いますが、急かされてる感があり、もっとゆったりでいいと思います。
サポーターの積極的対応
グループディスカッションのテーマに戸惑う場面で学生さんがうまくリードしてくれました。
各テーブル上での会話が聞き取りにくかった。参加者それぞれの意見の半分が聞き取れなかったが、まずは第1回ということもありますので、次回への改善を期待しております。準備など有難うございました。
グループについて下さった方も、わかりやすく説明していただき、とても運営はよかったですと思います。
とくにはないです。
タイムキーパーが必要。

特になし。良いプログラム進行だと思いました。

大変、勉強になる会議だったと思います。ありがとうございました。ただ机を教室形式に
していただけるとありがたかったです。もう少し時間が短くてもいいかなあと感じまし
た。できれば時間通りにして欲しいです。カタカナじゃなくて日本語をお願いします。「サ
ステナブル」って何ですか？

自分のみかもしれませんが、会話が聞きづらいです（マイクのスピーカーの設定？）。